

旭川市保健所運営協議会
会長 滝山義之様

旭川市保健所運営協議会
第3次健康日本21旭川計画策定部会
部会長 西條泰明

第3次健康日本21旭川計画策定部会審議結果報告書

第3次健康日本21旭川計画（以下「第3次計画」という。）の策定に当たり、第3次健康日本21旭川計画策定部会（以下「部会」という。）で審議した結果を次のとおり報告します。

1 計画策定の経緯等について

旭川市では、平成14年度に「健康日本21旭川計画」を、平成25年度には「第2次健康日本21旭川計画」（以下「第2次計画」という。）を策定し、健康を基盤とした生活の質の向上を目指し、健康づくりに関する取組を推進してきたが、令和5年度に第2次計画の終期を迎えるに当たり、令和4年度に実施した第2次計画総合評価の結果及び国から新たに示された「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」を踏まえ、令和6年度を始期とする第3次計画を策定する必要がある。

このことから、地域保健及び保健所の運営に関する事項を協議するために設置された旭川市保健所運営協議会に対し、令和5年6月30日付けで旭川市長から計画策定に関する意見を求める諮問があった。諮問を受け、より専門的な見地から審議を行うために本部会を設置し、議論を行ってきたものである。

2 審議経過について

第3次計画の策定に当たっては、令和5年8月30日の第1回会議以降、計4回の会議を開催した。

会議では、市の関係部局で構成される健康日本21旭川計画等庁内推進会議及び同専門部会において、整理された第2次計画における施策を推進する6分野ごとの現状及び課題並びに今後の取組の方向性等を踏まえ、第3次計画の骨子、施策体系、目標・目標値、主な取組等について審議を行い、第3次計画案を取りまとめた。

3 総論

第2次計画では、「健康寿命の延伸と生活の質の向上」を最終的な目標として取組を推進してきた。本市の健康寿命は着実に延伸しているものの、令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出機会の減少、運動不足や生活環境の変化によるストレスの蓄積、健（検）診受診控えなど心身の健康を妨げる要因が多くみられ、今後の健康状態の悪化が懸念される状況となっている。

また、少子高齢化及び核家族化の進展、女性の社会参画の拡大や多様な働き方の推進、あらゆる分野でのデジタル化が加速するなど、社会が大きく変化している中、年代や生活スタイル、心身の特性を踏まえ、一人一人が自分に合った健康づくりに取り組めるよう、地域や職域、関係機関や団体と連携しながら自然に健康になれる環境づくりを推進していく必要がある。

疾病の予防や早期発見の観点からは、特に食生活や身体活動、健（検）診の受診促進など、働き世代や健康への関心が薄い市民の行動変容を促す取組に注力していくとともに、平成30年度の間評価時から課題となっている情報発信については、第2次計画総合評価においても、市の取組が十分に知られていないことが明らかになっていることから多様な媒体の活用や関係機関・団体等と連携しながら、必要な情報がしっかりと市民に届くよう、取り組んでいただきたい。

第3次計画は、市民の健康づくり対策を総合的に推進していくための重要な計画であることから、本部会としては、第3次計画の基本理念である「誰もが健やかに生き生きと暮らし、幸せを感じることができまちなち」の実現に向け、市民や行政、関係機関や団体、地域、企業等のそれぞれが健康づくりの主体であるという認識の下、先に策定された「スマートウエルネスあさひかわプラン」との両輪により、各種取組が一層の連携・協働の下、進められていくことを期待する。

4 各論

(1) 目標及び目標値の設定について

本市の現状や現状値が、目指すべき状況と大きく乖離しているものについては、達成可能な状況を目指して目指すのではなく、実現が困難と思われる目標についても国の方針や他の計画等を踏まえ、目指すべき数値やあるべき姿を目指して、更なる取組の強化を図る必要がある。

取組の推進に当たっては、他市の先行事例等も参考に、本市の実情にあった効果的な手法について調査研究を行いながら取り組まれない。

(2) ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりについて

従来のライフステージごとの取組に加え、現在の健康状態は次世代の健康にも影響を及ぼす可能性についても踏まえた取組が必要である。

幼少期からの生活習慣や健康状態は、成長してからの健康状態にも大きく影響を与えることから、生活習慣が確立する学齢期について、学校との連携や親子をターゲットとするなど、子供の健康を支える取組に注力されたい。

また、青壮年期には、これまでの地域での取組に加え、職域との連携についても推進していくとともに、高齢になってもできる限り自立した生活を送ることができるよう、より若い世代のうちから認知症予防やフレイル予防等を意識した健康づくりの推進に努められたい。

(3) デジタル技術を活用した健康づくりの推進について

健康づくり施策の推進に当たっては、デジタル技術も活用し、その取組が広く市民に浸透するような工夫が必要である。

デジタル技術の活用に当たっては、関係機関・団体等との連携による普及啓発のほか、本市の高齢化にも配慮し、高齢者が取り残されることがないように地域の理解や協力も得ながら普及に努められたい。

(4) 計画の推進について

本計画は10年以上の長期にわたる計画であることから、時代の変化や社会情勢などにも適宜、柔軟に対応していくことが必要である。

取組内容や取組手法については、PDCAサイクルによる効果検証を行いながら、必要に応じて見直しを行うとともに、様々な機関や団体・企業等とのつながりを広げ、それぞれの強みを生かしながら連携・協働の下で取組を進められたい。

計画を市民に浸透させていくためには、シンプルな取組を繰り返し分かりやすく伝えていくことが必要である。周知に当たっては、広報媒体等に工夫を行いながら、様々な機会を捉えた手法についても留意されたい。

第3次健康日本21旭川計画策定部会の開催経過

会議	開催月日	議事
第1回	令和5年8月30日	(1) 部会長及び副部会長の選出について (2) 「第3次健康日本21旭川計画」の策定について (3) (仮称) 第3次健康日本21旭川計画【骨子案】について
第2回	令和5年10月6日	(1) 分野別現状と課題及び取組の方向性について (2) 分野別目標及び目標値について (3) ライフステージ区分について
第3回	令和5年11月14日	(1) 第3次健康日本21旭川計画(素案)について (2) 「第3次健康日本21旭川計画(案)」に対する意見提出手続の実施について
第4回	令和6年2月20日	(1) 「第3次健康日本21旭川計画(案)」に対する意見提出手続の結果について (2) 第3次健康日本21旭川計画(案)主な修正箇所について (2) 第3次健康日本21旭川計画策定部会審議結果報告書(案)について

第3次健康日本21旭川計画策定部会委員名簿

氏名	所属機関・団体名	備考
岩本 洋子	旭川精神障害者家族連合会	
岡 美由紀	公益社団法人 北海道看護協会 上川南支部	
岡田 政勝	社会福祉法人 旭川市社会福祉協議会	
木下 英弘	公募委員	
西條 泰明	国立大学法人 旭川医科大学	部会長
嵯城 俊明	一般社団法人 旭川薬剤師会	
谷 澄江	旭川市市民委員会連絡協議会 女性部会	
長瀬 まり	公益社団法人 北海道栄養士会 旭川支部	
長峯 美穂	一般社団法人 旭川市医師会 ※臨時委員	臨時委員
藤田 浩孝	一般社団法人 旭川歯科医師会	副部会長

(50音順, 敬称略)